

提 供 日 2026/01/27
タ イ プル 麻しん患者の本県来訪について
担 当 健康福祉部 医療局感染症対策課
連 絡 先 感染症管理センター
TEL 055-928-7220



危機管理情報

～麻しん(はしか)患者が本県を訪れていました～
接触した可能性がある方は、体調に注意してください！

1 要旨

1月24日に東京都内で麻しん患者が発生し、別添のとおり、東京都が注意喚起しています。また、保健所において患者の疫学調査を実施し、特定できた接触者について健康観察を行っています。

この患者は、1月22日に発症しており、周囲への感染性を有する期間に、県内で下記の施設を利用していました。下記施設へは公共交通機関以外を利用して来訪しております、利用後は東京都内に移動しているため、下記以外で県内における不特定多数の方との接触機会はありません。

接触した可能性がある方は、「4 患者と接触した可能性がある方へ」を参考に、適切な行動をお願いします。

2 患者の概要

30歳代男性（麻しん予防接種1回接種済、海外渡航歴あり）

発症日：令和8年1月22日（発熱、咳、コプリック斑※、発しん）

届出日：令和8年1月24日

※頬の粘膜（口のなかの頬の裏側）に出現する、やや隆起した1ミリメートル程度の白色の小さな斑点。

3 不特定多数と接触した可能性がある施設

御殿場プレミアム・アウトレット（御殿場市深沢1312）
1月21日（水曜日）12:00～16:00の間

- 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点において麻しん患者が利用した施設を利用されても感染の心配はありません。

4 患者と接触した可能性がある方へ

- 麻しん患者と接触した場合は、接触後最大21日間、体調に注意してください。
- 発熱、発疹等の症状から「麻しん」が疑われる場合は、必ずマスクを着用し、事前に医療機関に「麻しん患者と同じ施設を利用した可能性がある」等を連絡の上、速やかに受診してください。
- 受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

5 麻しんについて

(1) 症状等

潜伏期は通常10～12日間（最大21日間）であり、38℃程度の発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。また、麻しんに伴ってさまざまな合併症がみられ、全体では30%にも達するとされます。肺炎や、頻度は低いものの脳炎の合併例もあり、特にこの二つの合併症は麻しんによる2大死因となり、注意が必要です。

(2) 感染経路等

空気（飛沫核）感染のほか、飛沫や接触感染など様々な経路があります。感染力はきわめて強く、麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）が、日本国内では約85%の人が麻しんの免疫を持っており、このような感染拡大は起こりません。感染力のある期間は、発症1日前から解熱後3日を経過するまでです。

(3) 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

(4) 予防

ワクチンの効果は非常に高く、ワクチン接種を受けた人の95%以上が免疫を獲得します。しかし、接種しても、数%は免疫が獲得できない場合や、獲得した免疫が持続しない場合があります。現在、1歳（第1期）と小学校入学前年度（第2期）に、麻しん・風しんワクチンの定期予防接種を実施しており、予防接種を2回していれば感染するリスクはかなり低下します。麻しんは予防接種で防げる病気であり、ワクチン接種は個人ができる有効な予防方法です。麻しんの定期予防接種をまだ受けていない子どもは、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。

(5) 麻しん患者の発生状況（単位：人）

※2026年は第3週まで（～1/18の速報値）

年	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)
全国	744	10	6	6	28	45	265	4※
静岡県	10	1	0	2	2	0	2	0

※今回の患者を含まない